

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	さっぽろにほんだいがくがくえん さっぽろにほんだいがくこうとうがっこう				②所在都道府県	北海道
27～31	①学校名	学校法人札幌日本大学学園 札幌日本大学高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	平成26年度在籍 高校 1,065名 中学 240名 特別進学コース 318名・総合進学コース 528名・中高一貫コース 219名	
中高一貫	84	61	74		219		
⑥研究開発構想名	北海道の産業課題を世界視点で捉え、解決に導くグローバル人材育成						
⑦研究開発の概要	高大官民との連携による活きた情報を学び、知的好奇心を喚起し、学習意欲、探究心、問題発見意識などの向上を図り、課題解決を図れる人材を育成する。また、国際舞台での発信力、交渉力となる英語コミュニケーション力の育成及び国際機関、国際的企業などで日本のリーダーとして活躍する人材となるための多様性を身につけ、世界規模の視点で主体的に活躍する全人的グローバル・リーダーを育成する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>目的：社会、経済、文化などのグローバル化が急速に進展し、国際的な流動性が高まっている現在、科学技術の急速な進歩と社会の高度化、複雑化や急速な変化に伴い、過去に蓄積された知識や技術のみでは対処できない新たな諸課題が生じ、これに対応していくため、新たな知識や専門的能力を持った人材が求められている。このような状況を鑑み、21世紀の社会状況を展望し、国際社会でリーダーとなるべく人材育成のプログラムを開発する。</p> <p>目標：多文化社会において、「自我の確立・多様性の受容・普遍性への気づき」のIB精神のもと、世界規模の視点にたつて、グローバル化社会の課題を自らの問題意識から発見し、多角的に検証を行い、責任ある地球市民として多様性ある行動と発信を行える人材育成を目標とした、課題探究型のグローバル・リーダー育成プログラムの開発を目指す。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>現状分析：SGHアソシエイト校として指定を受け、国際教養の基礎教育を実施したが、横断的な取り組みや発展的な教育が未完成であった。生徒の意識は、「世界に飛び出そうとするポテンシャル」は高いものの、自らが様々な活動や自己研磨の機会を求めていく行動力や自律的に学ぶ姿勢、自分の考えをまとめて説明するなどの論理的表現力に課題を抱えている。国際関係の大会（模擬国連大会）に初出場し、全国大会に出場した。</p> <p>研究開発の仮説：</p> <p>本校が考えるグローバル・リーダー像は、世界の仕組みを理解し、課題を見つけ、多様性ある思考、行動のもと、課題解決に導く決断ができる人材である。成果物は、「課題探求型学習」の教育課程の研究を通じて、グローバル・リーダーの意識をもった生徒が増えることである。</p> <p>仮説1：違いを感じる感受性、異文化・価値観への理解力、多様なやり方にあわせる柔軟性の育成を通じて、「異なる歴史的・文化的背景や価値観の理解と共生ができる」生徒が増える。</p> <p>仮説2：物事を組み立てて前に進ませる力の育成により、「異質な環境での対応力、ゼロベースでの構築力、問題解決型思考力」をもつ生徒が増える。</p> <p>仮説3：積極的・論理的な説明力、コミュニケーションの粘り強さを通じて、人を動かす力をもった生徒が増える。</p>					

	<p>仮説4：適正なパフォーマンス評価により，探求型学習に意欲的に取り組む生徒が増える。</p> <p>(3) 成果の普及 研究授業の公開，研究会の実施，成果報告書の配布，シンポジウムの開催及びホームページを利用して活動状況を広く公開する。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 世界の仕組みを理解し，課題を見つけ，多様性ある思考，行動のもと，課題解決に導く決断ができる人材を育成するための課題探求型教育研究と評価システムを研究すること。</p> <p>■ <u>課題探求型学習 探求基礎 「情報の収集力，分析力，考察力」</u> ジェネリックスキルを基本に，異文化に対する理解力と寛容性を養う研究を行なう。本校教師と外部講師（フィールドワーク協力機関及び北海道大学から先生を招き，本物の異文化社会を学ぶ。また，国内研修，海外研修を通じて体験による感受性を養う。</p> <p>■ <u>課題探求型学習 探求応用 「問題解決力・コミュニケーション力」</u> 「個人探求」：「食料（日々の生活と切っても切り離せない「食」を通じて，北海道の身近なトピックスから，世界規模の問題を捉え，そして自らの関わり方を問い直す など）・観光・領土・戦後70年」を切り口とし，北海道が抱える課題を世界視点で考え，解決施策を策定する。生徒は個人の興味，関心に応じて個人研究テーマを選択し課題研究に取り組む。「グループでの探求」：同一テーマ毎にグループ単位で課題検討，分析，意見交換を行う。「外国人フィールドワーク」：フィールドワーク協力機関に出向き，意見交換を通じ問題解決型思考を研究する。</p> <p>■ <u>課題探求型学習 探求発展 「情報発信力，交渉力」</u> 個人論文の策定を行う。語学力レベルに応じて，レベル①は英語論文，レベル②は日本語論文とする。英語力の差異により，①か②を選択。論文は，ロジカルライティング（自分の意見や主張を，相手にわかりやすく伝えるための文章作成法）を意識して策定。各種コンクールに応募，学内発表，学外発表の実施。卒業論文の作成。</p> <p>■ <u>「パフォーマンス評価」の研究</u> 課題探求研究（思考・判断・表現など）の質的評価検証プログラムの研究，開発。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 国際教養の習得（探求基礎）→テーマの課題策定（探求応用）→解決仮説の策定（探求応用）→集団議論（探求応用）→フィールドワーク（探求応用）→解決法の立案（探求発展）→論文策定（探求発展）→プレゼンテーション・発表（探求発展）を研究モデルとして実施。検証評価は，「パフォーマンス評価による研究課程評価」・「研究過程の発表評価」・「研究ノート」・「論文」・「アンケート」・「目標設定の達成状況」などを総合して，運営指導委員会などと連携して研究課程を総合的に評価する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 なし</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 ア. 教科・科目の中でのグローバル人材育成への取り組み TOEFL，ケンブリッジ英検などを通じて，国際的基準での生徒の英語力検証を実施。 イ. 国際関係機関への積極的な参加 国内模擬国連大会への参加を通じて，課題発見，解決，積極性ある行動力の育成を目指す。また，札幌市主催の国際フォーラムへの積極的による体験型人材育成。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の実施内容・実施方法 既存の取り組みのレベルアップと課題研究との連携活動，課外活動の活性化。国際関係の様々な大会への参加を推進するために，学校行事，部活動の活性化を図る。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑨ その他 特記事項</p>	<p>なし</p>

ふりがな	さっぽろにほんだいがくがくえん さっぽろにほんだいがくこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	札幌日本大学学園 札幌日本大学高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:							210人
	SGH対象生徒以外:		1050人	1010人				840人
目標設定の考え方: 総合的な学習の時間、SSH研究活動を通じて、全生徒に指導している								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:							70人
	SGH対象生徒以外:		80人	75人				20人
目標設定の考え方: SGH対象生徒は海外研修が必須。SGH対象外生徒は希望者が海外研修対象となる。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							80%
	SGH対象生徒以外:		30%	30%				65%
目標設定の考え方: 大学進学後に留学を希望する生徒が多い。高校時代は短期留学の傾向が強い。興味は強い。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:							30人
	SGH対象生徒以外:		0人	1人				4人
目標設定の考え方: 本年度初めて「模擬国連大会」に出場。毎年、予選大会に全員の参加を義務付ける。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:							70%
	SGH対象生徒以外:		30%	20%				30%
目標設定の考え方: 現在副教材として使用している教材が、B1～B2を使用している。半数以上の生徒がレベル突破を目指している。								
(その他本構想における取組の達成目標) 研究論文の策定数								
f	SGH対象生徒:							210本
	SGH対象生徒以外:		5本	5本				35本
目標設定の考え方: SGH対象生徒以外はSSHで研究課題に取り組む。SGH対象生徒は必須化している。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:								60%
	SGH対象生徒以外:	40%	40%						30%
目標設定の考え方: 現行も国際化に重点を置く大学への進学希望者が多い。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:								10人
	SGH対象生徒以外:	1人	0人						5人
目標設定の考え方: 海外への意識は高いものの決断できない状況の生徒が多い。経験を積ませながら、海外への進学を推進する。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:								60%
	SGH対象生徒以外:	-	-						40%
目標設定の考え方: SGH対象生徒の5割が専攻した研究に関連した大学を選択することは割合として非常に高い。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:								30人
	SGH対象生徒以外:	-	-						50人
目標設定の考え方: 現在の進学先や生徒の志向から、大学での留学は意識が高い。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人						80人
目標設定の考え方: 研修旅行として海外へ渡航している。そのプログラムの中は研究課題の研修実証が含まれている。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	0人						80人
目標設定の考え方: フィールドワークプログラムの中に課題研修が含まれているため、研修実証となる。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	2校	2校						5校
目標設定の考え方: 姉妹校、協力校以外の関係機関との連携を模索するが、年1機関ずつ増やす計画である。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	12人	13						50人
目標設定の考え方: より多くの外部人材との接触を推進している。現状の実績をベースにより多くの依頼を行う。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	3人	3人						10人
目標設定の考え方: より多くの企業や官庁の協力を得れるよう、開拓を進める。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	3人						20人
目標設定の考え方: 各種大会に参加しうる部活動などの充実を目指す。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	2人	2人						10人
目標設定の考え方: 海外入試を実施している。広報活動を積極的に行い、受け入れを拡大したい。								
先進校としての研究発表回数								
h	回	回	回	回	回	回	回	回
目標設定の考え方:								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 平成27年度に作成着手の計画である。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	1,015	1,070					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							